

## 議員派遣結果報告書

1	名 称	関係人口関係者向け勉強会(セミナー) 関係人口とともにつくる『にぎやかな過疎』
2	場 所	大栄農村環境改善センター 2階 大会議室
3	期 間	令和7年12月16日(火) 1日間
4	内容・成果	<p>近年、若者のライフスタイルの多様化により関係人口がクローズアップされている。関わることに価値を見出す時代になっている。関りは貢献的関りと居場所的関りに大別される。三大都市圏の18歳以上の約2割が関係人口として、日常生活、通勤圏等以外の特定の地域を訪問している。訪問先は同じ大都市圏内が半数を占め、地方に成る程、少ない。</p> <p>関係人口の内、移住に向かうプロセスは3パターンある。関りの内容も、観光、特産物購入、ボランティア活動など様々である。</p> <p>考察</p> <p>人口減少対策として、この関係人口をどうやって移住に結び付けるかが焦点となる。そこには三つの課題がある。</p> <p>①見えない見える化する(ふるさと納税者に見えるように する等)ことで関係性を強化する。ネットショッピングで 終わらず、体験型を増やす。</p> <p>②離れやすい状況(学生、妊婦)を対策し関係性を持続す る。</p> <p>③地域の人々と混ざりやすくする(ごちゃまぜ化)</p> <p>①②は2026年始まる「ふるさと住民登録制度」で対応</p> <p>③は昔は公民館、今は子ども食堂のようにごちゃまぜになる場をつくる。</p> <p>結局は関係人口とのコミュニケーション、信頼関係が移住の大事な要素となっているのではなかろうか。そこに環境改善等が加わり移住につながると思われる。</p>

--	--	--

提出期限 令和8年1月9日(金)まで